

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2019年11月13日
【四半期会計期間】	第68期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画部長 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第2四半期連結 累計期間	第68期 第2四半期連結 累計期間	第67期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	18,347,982	22,387,514	40,768,893
経常利益 (千円)	2,157,255	3,548,475	6,012,220
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,327,845	2,268,436	3,972,228
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,334,395	2,252,924	3,912,278
純資産額 (千円)	15,716,636	19,302,460	18,294,322
総資産額 (千円)	21,983,792	26,424,435	25,953,533
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	42.67	72.89	127.64
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.5	73.0	70.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,746,699	3,062,657	4,697,130
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,334,376	997,796	2,433,509
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,230,797	1,378,339	1,352,493
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	3,930,980	6,342,454	5,659,617

回次	第67期 第2四半期 連結会計期間	第68期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.28	40.03

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、改元に伴う大型連休の活況など明るい話題が見られた一方、本年10月に実施された消費税率引き上げによる消費マインドの悪化懸念など、先行き不透明感の高まりから個人消費は力強さを欠く状況で推移いたしました。また、業種・業態を超えた競争の激化、物流コストの上昇、人材不足を背景とした人件費の上昇などもあり、総じて厳しい事業環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、『超 超絶 WSR!! ( 1 )』を2019年の経営スローガンに掲げ、主力ブランド及び主力商品の育成に向け、商品力、販売力・営業力、売場力のレベルアップによる現場力の向上に引き続き注力いたしました。また、顧客層の拡大に向け、新ブランド・新業態・新商品開発を推進いたしました。更に、当面の重点施策であります、「GTS (グレート・トランスフォーメーション・サクセス) ( 2 )」、「インバウンド対策の強化」、「海外展開 (海外における事業モデルの構築)」、「首都圏でのWSR化展開の推進」の4つのテーマに、スピード感を持って取り組みました。

製造面では、品質及び衛生管理の一層の強化を図ると共に、設備投資による増産体制の構築及び生産性の向上に対処いたしました。

以上の取り組みにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は22,387百万円 (前年同期比22.0%増)、営業利益は3,518百万円 (前年同期比63.6%増)、経常利益は3,548百万円 (前年同期比64.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,268百万円 (前年同期比70.8%増)となりました。

1 WSR (ダブルエスアール)とは、グループ経営基本方針として2015年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常 (超感動)を提供する」という意味が込められています。

2 「GTS」とは、『Great Transformation Success』=「大転換による成功」を意味し、スピードとエネルギーを象徴する言語として命名しております。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しておりますシュクレイは、各ブランド認知度の向上を図るため、既存店の販売強化に注力するとともに、派生ブランド及び新業態による出店増加が寄与したことにより、直営店売上が伸びました。また、営業強化により国際線ターミナル売店及び駅売店での卸売上が好調に推移いたしました。なお、直営店の出退店数は、本年4月に「洋菓子のフランス」の新業態店「レモンショップ by FRANCAIS」を小田急新宿駅西口地下構内に、「キャラメルゴーストハウス」の新業態「キャラメルゴーストパーティー」をキラリナ京王吉祥寺にそれぞれ出店するなど、計5店の出店及び5店の退店を実施いたしました。新ブランドでは、本年7月、東京駅に新たに開業されたHANAGATAYA グランスタ東京中央通路店において新ブランド「ベリーアップ」商品を投入いたしました。その結果、売上高は7,829百万円 (前年同期比30.8%増)、営業利益は1,031百万円 (前年同期比30.2%増)となりました。

#### ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、昨年9月に発生しました北海道胆振東部地震のマイナス影響の反動増に加え、営業強化により主要都市空港の国際線ターミナル免税売店での卸売上が堅調に推移いたしました。また、通信販売では、ロイヤルカスタマー対策や限定商品投入などの対策強化が寄与し、通販売売が伸びました。その結果、売上高は5,771百万円 (前年同期比14.6%増)となり、営業利益は589百万円 (前年同期比29.5%増)となりました。

#### 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、前年同期に実施いたしましたグループ向け生産の一部を他のグループ製造拠点に移管したことによる減収要因が一巡し、グループ向け売上が増収基調に転じ、また、「サンドクッキー」などの新製品の営業強化及び販路拡大などにより代理店及び山陰地区での卸売上が好調に推移いたしました。その結果、売上高は5,778百万円 (前年同期比12.6%増)、営業利益は881百万円 (前年同期比56.2%増)となりました。

#### 販売子会社

販売子会社は、東海地区において、昨年11月に新店いたしました三重寿庵伊勢神宮内宮前おはらい町通り店の出店効果や改元祝賀ムードも追い風となり、主力商品「伊勢奉祝えびせんべい」が好調に推移いたしました。関西地区では、本年4月に新ブランド「ビスポッケ」神戸本店を立上げ、同年5月にあべのハルカス近鉄本店に出店し、更に、本年7月に「京都ヴェネト」京都駅前地下街ポルタ店を出店するなど、店舗展開を推進いたしました。その結果、売上高は3,330百万円（前年同期比17.9%増）、営業利益は350百万円（前年同期比65.9%増）となりました。

#### 九十九島グループ

九十九島グループは、テーマパーク向けOEM生産の中止、製造ライン新設によるグループ向け売上の増大など前連結会計年度に実施した取り組みが奏功し、収益性が大幅に改善いたしました。また、フレンチトースト専門店「アイポリッシュ」ブランドを中心に首都圏での催事強化に努めました。新規出店では、本年8月に「アイラブカスタードヌフヌフ」の2号店を福岡空港に出店いたしました。その結果、売上高は2,317百万円（前年同期比48.2%増）、営業利益は268百万円（前年同期は営業損失102百万円）となりました。

#### その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾及び香港）における菓子事業が含まれており、売上高は460百万円（前年同期比322.6%増）となり、営業損失は60百万円（前年同期は営業損失101百万円）となりました。

なお、「その他」には、第1四半期累計期間より前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited（香港）が含まれております。

### (2) 財政状態の状況

#### 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、26,424百万円となり、前連結会計年度末に比べ470百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の増加（682百万円）、流動資産におけるその他の増加（161百万円）、商品及び製品の増加（157百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（123百万円）、受取手形及び売掛金の減少（626百万円）、建設仮勘定の減少（128百万円）などの要因によるものです。

負債は7,121百万円となり、前連結会計年度末に比べ537百万円減少いたしました。主な要因は、未払金の減少（529百万円）、長期借入金の減少（121百万円）、賞与引当金の増加（106百万円）などの要因によるものです。

純資産は19,302百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,008百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（2,268百万円）、配当金の支払いによる減少（1,244百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.5ポイント増加の73.0%となり、1株当たり純資産は620円27銭となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）残高は、前連結会計年度末に比べ682百万円増加し、6,342百万円（前年同期比61.3%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、3,062百万円（前年同期比75.3%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益3,455百万円、売上債権の増減額624百万円、減価償却費671百万円の計上などの増加要因があった一方、法人税等の支払額1,223百万円、その他の減少額577百万円、たな卸資産の増減額188百万円などの減少要因によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、997百万円（前年同期比25.2%減）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出893百万円などの減少要因によるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,378百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

主な要因は配当金の支払額1,244百万円、長期借入金の返済額132百万円などの減少要因によるものであります。

### (4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、25,536千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	91,200,000
計	91,200,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,121,520	31,121,520	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	31,121,520	31,121,520	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	31,121,520	-	1,217,800	-	550,269



(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
エスカワゴエ株式会社	東京都港区麻布台3-5-3-2902	9,300	29.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,527	4.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,392	4.47
株式会社山陰合同銀行	島根県松江市魚町10	900	2.89
とりぎんリース株式会社	鳥取県鳥取市扇町9-2	762	2.45
寿スピリッツ従業員持株会	鳥取県米子市旗ヶ崎2028寿製菓(株)内	721	2.32
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111(東京都中央区日本橋3-11-1)	700	2.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1-8-11	453	1.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	400	1.29
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2-10-17	360	1.16
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4-20-1	360	1.16
計	-	16,878	54.24

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,115,100	311,151	-
単元未満株式	普通株式 4,620	-	-
発行済株式総数	31,121,520	-	-
総株主の議決権	-	311,151	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が18,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数180個が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎 2028番地	1,800	-	1,800	0.00
計	-	1,800	-	1,800	0.00

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,659,617	6,342,454
受取手形及び売掛金	4,897,052	4,270,189
商品及び製品	1,669,636	1,826,965
仕掛品	84,750	76,561
原材料及び貯蔵品	560,709	598,110
その他	331,526	493,116
貸倒引当金	845	683
流動資産合計	13,202,445	13,606,712
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,264,236	4,387,766
機械装置及び運搬具(純額)	2,559,283	2,627,378
工具、器具及び備品(純額)	455,669	448,319
土地	2,887,139	2,887,139
リース資産(純額)	2,640	1,618
建設仮勘定	222,010	93,591
有形固定資産合計	10,390,977	10,445,811
無形固定資産	158,089	149,834
投資その他の資産		
その他	2,208,878	2,228,934
貸倒引当金	6,856	6,856
投資その他の資産合計	2,202,022	2,222,078
固定資産合計	12,751,088	12,817,723
資産合計	25,953,533	26,424,435
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,336,926	1,379,174
1年内返済予定の長期借入金	252,729	241,396
未払金	1,373,043	843,355
未払法人税等	1,229,875	1,193,480
賞与引当金	795,680	902,446
ポイント引当金	10,832	13,102
その他	805,132	769,088
流動負債合計	5,804,217	5,342,041
固定負債		
長期借入金	180,017	58,819
退職給付に係る負債	1,473,259	1,528,652
その他	201,718	192,463
固定負債合計	1,854,994	1,779,934
負債合計	7,659,211	7,121,975

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	15,800,192	16,823,842
自己株式	2,063	2,063
株主資本合計	18,339,090	19,362,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,233	11,341
為替換算調整勘定	27,188	36,206
退職給付に係る調整累計額	38,813	35,415
その他の包括利益累計額合計	44,768	60,280
純資産合計	18,294,322	19,302,460
負債純資産合計	25,953,533	26,424,435

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	18,347,982	22,387,514
売上原価	7,931,939	9,127,273
売上総利益	10,416,043	13,260,241
販売費及び一般管理費	8,264,961	9,741,426
営業利益	2,151,082	3,518,815
営業外収益		
受取利息	474	57
受取配当金	3,455	3,489
受取地代家賃	9,355	10,325
その他	14,463	23,747
営業外収益合計	27,747	37,618
営業外費用		
支払利息	1,545	915
持分法による投資損失	10,072	-
その他	9,957	7,043
営業外費用合計	21,574	7,958
経常利益	2,157,255	3,548,475
特別利益		
固定資産売却益	659	116
特別利益合計	659	116
特別損失		
固定資産除却損	12,662	7,036
減損損失	-	85,667
災害による損失	37,543	-
特別損失合計	50,205	92,703
税金等調整前四半期純利益	2,107,709	3,455,888
法人税等	779,864	1,187,452
四半期純利益	1,327,845	2,268,436
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,327,845	2,268,436

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,327,845	2,268,436
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,127	9,892
為替換算調整勘定	392	9,018
退職給付に係る調整額	1,396	3,398
持分法適用会社に対する持分相当額	419	-
その他の包括利益合計	6,550	15,512
四半期包括利益	1,334,395	2,252,924
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,334,395	2,252,924

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,107,709	3,455,888
減価償却費	558,007	671,011
貸倒引当金の増減額(は減少)	8,624	147
賞与引当金の増減額(は減少)	87,058	106,766
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	57,924	55,393
受取利息及び受取配当金	3,929	3,546
支払利息	1,545	915
持分法による投資損益(は益)	10,072	-
ポイント引当金の増減額(は減少)	3,179	2,270
固定資産売却損益(は益)	659	116
固定資産除却損	12,662	7,036
減損損失	-	85,667
災害損失	37,543	-
売上債権の増減額(は増加)	417,602	624,282
たな卸資産の増減額(は増加)	257,922	188,936
仕入債務の増減額(は減少)	83,920	45,156
その他	390,522	577,625
小計	2,541,367	4,284,014
利息及び配当金の受取額	3,929	3,546
利息の支払額	1,472	1,056
法人税等の支払額	797,125	1,223,847
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,746,699</b>	<b>3,062,657</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	-	3,550
有形固定資産の取得による支出	1,237,995	893,250
有形固定資産の売却による収入	11,045	3,668
無形固定資産の取得による支出	60,288	14,922
敷金及び保証金の差入による支出	20,312	39,367
敷金及び保証金の回収による収入	25,040	29,131
その他	51,866	79,506
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,334,376</b>	<b>997,796</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	140,198	132,531
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,301	1,022
自己株式の取得による支出	108	-
配当金の支払額	1,089,190	1,244,786
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,230,797</b>	<b>1,378,339</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	599	3,685
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	817,875	682,837
現金及び現金同等物の期首残高	4,748,855	5,659,617
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,930,980	6,342,454



【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
従業員給料・賞与	2,370,675千円	2,577,796千円
貸倒引当金繰入額	4,262	148
賞与引当金繰入額	382,601	518,364
退職給付費用	52,754	31,869

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	3,930,980千円	6,342,454千円
現金及び現金同等物	3,930,980	6,342,454

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,089,190	35.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,244,786	40.00	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島 グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	5,940,007	4,772,917	3,487,927	2,816,080	1,222,094	18,239,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	48,063	261,280	1,643,016	9,043	341,661	2,303,063
計	5,988,070	5,034,197	5,130,943	2,825,123	1,563,755	20,542,088
セグメント利益 (は損失)	792,056	454,986	564,284	211,172	102,283	1,920,215

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	108,957	18,347,982	-	18,347,982
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2,303,063	2,303,063	-
計	108,957	20,651,045	2,303,063	18,347,982
セグメント利益 (は損失)	101,522	1,818,693	332,389	2,151,082

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額332,389千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額633,549千円、セグメント間取引消去額13,081千円、たな卸資産の調整額1,050千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 315,291千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	シュクレイ	ケイシイシイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	7,645,137	5,590,111	4,002,321	3,320,135	1,369,394	21,927,098
セグメント間の内部売上高又は振替高	184,667	181,307	1,775,787	9,865	948,298	3,099,924
計	7,829,804	5,771,418	5,778,108	3,330,000	2,317,692	25,027,022
セグメント利益(は損失)	1,031,012	589,306	881,552	350,364	268,521	3,120,755

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	460,416	22,387,514	-	22,387,514
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	3,099,924	3,099,924	-
計	460,416	25,487,438	3,099,924	22,387,514
セグメント利益(は損失)	60,163	3,060,592	458,223	3,518,815

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

なお、第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度に連結の範囲に含めましたHoney Sucrey Limited(香港)が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額458,223千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額763,047千円、セグメント間取引消去額14,094千円、たな卸資産の調整額29,052千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 347,970千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」及び「ケイシイシイ」の資産グループについて減損損失を計上いたしております。

なお、当該減損損失の当第2四半期連結累計期間における計上額は「シュクレイ」38,770千円及び「ケイシイシイ」46,897千円であります。

(金融商品関係)  
 著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)  
 著しい変動がないため、記載しておりません。

(企業結合等関係)  
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)  
 1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	42円67銭	72円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	1,327,845	2,268,436
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	1,327,845	2,268,436
普通株式の期中平均株式数(株)	31,119,707	31,119,657

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)  
 該当事項はありません。

2【その他】  
 該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月5日

寿スピリッツ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 篠原 孝広 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 古川 譲二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。